
彼女と勇者と往復書簡

深月織

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

彼女と勇者と往復書簡

【Nコード】

N9983W

【作者名】

深月織

【あらすじ】

物見遊山半分で勇者選定式に旅立った幼なじみのアイツが、何の間違いか勇者さま（笑）に選ばれたそうです。大丈夫なのかしら。幼なじみの彼女（一般人）と彼（新米勇者）の旅の間の往復書簡。適当設定でお送りするノリだけファンタジー。

限定公開解除しました

01 彼女の手紙(一)

王国通信——《号外》——勇者現る！——

さる水の月九日、勇者選定式にて八十年ぶりに聖剣が主を選んだ。王の名のもとに一〇八八代勇者と認められたのは、王国の東マレー郷出身のクロード・ガイスト卿。

慣例に従って、従者が決定次第、魔王討伐に向かうことになる。

[illegible]

親愛なる友クロードへ

王都はいかがですか？ 迷子になっていませんか。いままで狩りやギルドの魔物退治以外で村の外に出たことがなかった田舎者が都会でマゴマゴしている様子が目に浮かぶようです。

頼りなげな未亡人や絡まれている娘さんを助けて手当たり次第にフラグを立てていませんか？ 何故か厄介な女性と揉め事に縁がある貴方なので、幼なじみとしてはちよつと心配です。

貴方からの手紙とお土産、確かに受け取りました。素敵な髪飾り
 ありがとう。だけど、ロースタ産の水晶細工の髪飾りなんて高価な
 もの、私が貰つて良かったのかしら？　こういうものは恋人にあげ
 た方がいいと思うの。

——ええ、貴方が甲斐性なしだということはわかっています。二十年彼女なし人生ですものね。お互い様だというのもわかっています。村の若者人口が少ないのが悪いと思います。大事にしますね。

こんな田舎に泥棒もないだろうけど、すっかり家を開けていたら危ないかも？ 特に今は選定式で男衆皆が出ているから——てゆーか、マジなの？

あの走り書きだけじゃワケわかんかったのよ、「最悪だ、帰り

たい」って何が最悪なのちゃんと内容も書きなさいよ。まあ、すぐ後に届いた王国通信で大体の事情はわかったけどさ。

ええと。……御愁傷様？

これマジうつそ世界終わったー！　って村でちょっと騒ぎになつてたわ。

同姓同名かと疑ったけど、お土産だけ届いてアンタが帰ってこないってことはやっぱり本当なのね。

勇者さま（笑）。

記事に魔王退治に行くって書いてあったけど、用意はちゃんと出来てるの？　アンタうつかりだから忘れ物とかしそう。寝坊しても起こしてあげる幼なじみ様はいないんだから、しっかりしなさいよね。入り用のものがあれば遠慮なく言って頂戴。この手紙と同じでギルドを通せばどこにいても届くでしょ。

とりあえずこのエーファ様特製の腹痛薬入れておいたから、ありがたく受け取るのね。アンタくらいじゃないの、市販の薬飲んでお腹壊す人。

まあいいわ、怪我には気をつけて、ちゃんと働いてきなさい。

……勇者（笑）って給料出るの？　しっかり交渉しておくのよ、タダ働きはダメよ。

暇があるときに旅先のこと、手紙で教えてくれたら嬉しいわ。

水の月十三日　エーファ・アイルツ

02 勇者の手紙（一）

××××××××××××××××××××××××
《選ばれし者の剣》

アトスに伝わる聖剣。選ばれし勇者にしか手にすることは出来ず、魔王を唯一傷つけることのできる武器。主が居ないときは王都の主神殿に預けられる。

四年周期で勇者選定式が行われ、アトスの成年男子は生涯に一度は必ず選定に挑まねばならない。

××××××××××××××××××××××××

親愛なるエーファへ

王都は人が多くて疲れます。お察しの通り、一度迷子になってしまいました。この年で情けない。

荷物が大変そうなご婦人と、道に迷っているところを助けて頂いた娘さんと知り合いましたが、別にフラグなどは立てていません。おかしい心配はしないでください。

選定式の前に買った土産が無事届いてほっとしています。出来れば自分で渡したかったのですが、すでにご存じの通りの訳で、しばらくは帰れそうにありません。

髪飾りですが、それは君のために俺が選んだのだから、余計な気を回さずに使ってもらえとうれしい。

あと、髪飾りのことがなくても戸締まりはきちんとしなさい。すぐに駆けつけられる距離に俺がいるわけではないので、気をつけてくれぐれも、過剰防衛にはならないように。半分の半分くらいで勘弁してやることです。

一緒に選定式に来た皆は、この手紙が届く頃には村に帰っているだろうから、選定式の詳しいことは彼らが話すと思うけれど——マ

ジだ。大マジだ。

根性なしのこの聖剣がすっかり俺なんかに抜かれたもんだから、もう大変だったんだよ……。

怪しいなと思ったときに抜けないふりでもすればよかったと後悔しきりだ。本当なら今ごろ村に帰って……ああくそ、とつとと魔王ぶっ飛ばして帰る！

と、俺としてはすぐさま旅に出るつもりだったんだが、陛下の野郎が激励会を！とか神殿長のメタボが加護の儀式を！とか言い出しやがってまだ城だよ。

おう、城だぞ城。城の一室に滞在中ですよ。騎士だの侍女だのあちこちに人がいてウゼエ。聖剣に呪われてるんだから逃げねえつつの。

田舎モンだからウカツに出歩けないしよ。迷子は一度で十分だ。城、アホみてえに広いんだよ。

で、パーティーやお祈りやらの合間合間に魔王討伐のメンバーを決めているらしいんだが、これがまた辛気くさいのなんの。足手まといだから口ばかりの貴族の坊っちゃんやら実戦経験が乏しい神官なんていらなんだが。

あと一日待ってまだ決まらないようなら勝手に出発しようと思っている。何なら、城下で冒険者雇ってもいいしな。

そうそう、勇者には給料は出ないが、支度金や援助として金貨50000枚頂いたぞ。その日にギルドの金庫に預けておいた。いまいち神殿は信用出来ないっぽい。使い慣れているところの方がいいだろ。

締めり屋のエーファが金に困ることはないだろうが、もし何か入り用のことがあれば多少は使ってもいいぞ。暗証番号は知っているだろ？

ああ、そうだ薬助かった！城の飯旨いんだけど量が多いわ味は濃いわで胃薬貰ったらまんまと中ったよ……。また送って。

もう王宮料理はいいや、エーファの野菜シチューが食いたい。

水の月十七日 すでにうんざりクロードより

03 彼女の手紙(二)

王国通信——《号外》——從者決まる！——

さる水の月二十日、一〇八八代目勇者と共に魔王討伐に向かう従者たちのお披露目が行われた。

榮譽ある討伐従者に選ばれたのは、神より類い稀なる法力を授かつたマティウス神官、一角鬼をその剛力で討ち果たしたヴィクトール武官、暁の姫の再来と呼ばれる白の巫女フィルメル、毒水に冒されたカサヴァー湖を一瞬で浄化した月の魔女ターリア。いずれも実力充分、必ずや勇者の支えとなるだろう。

勇者一行の出発は、旅立ちに相応しい日取りを待つて行われる予定。

親愛なる勇者（笑）クロード様へ

貴方が王都へ出発してから、そろそろ一月になりますね。よく考えてみると、これだけの間長く顔を会わせないのは、十年前に貴方が師匠に連れられてアイギス山脈へ修行に出たとき以来でしょう。あのときは三ヶ月で済みましたが、今回はそれ以上になるかと予想されます。

毎日見ていた顔が隣にないというのは、少しでも調子が狂うような気がします、貴方がいないこの機会に隣家の魔窟状態をなんとかする所存でおります。

さ、寂しくなんかないんだからねっ！ と心にもないお約束のツンデレをかましておいて、クロードくん秘蔵のエロ本発掘にかかりたいと思います。ニヤリ。

そういえば最新の王国通信、お仲間さんの写真と一緒に写ってた勇者（笑）様、あれアンタじゃなかったわよね？ 影武者？ クロ

のくせに生意気な。

ってゆーかさ、昔話聞いてたときにも思ったけど、魔王討伐に従者が四人ぼっちってどうなの？ 魔族さんたち大群で待ち受けてたら、アンタたちおしくらまんじゅうでペチャンコ敗北じゃないの？ …… ああ、だから王国の歴史が五百年なのにー。八八代なのか…。

ガンバツ

それはおいといて、一昨日他の皆が村に帰ってきたわ。帰ってくるなり皆して人のところ押し掛けてきてアレコレ土産話してくれたけど、あんまりアンタの話してくれなかったのよね。

聖剣を抜いちゃったときどんなマヌケ面してたとか、引っ掛けたご婦人やら娘さんやらマツチョやらにどう迫られてたとかネタになりそうなこと聞きたかったんだけど。

やっぱりアレかしら、身内から勇者（何回書いても笑うわー）が出ちゃって複雑なのかしら？ 同じ村出身で年齢もおなじくらい、差異はないのにアンタが選ばれちゃって、いろいろと考えるところがあるんだろうな、って思うとあまりしつこく訊けなくて。心優しいエーファさんとしたら、男のちっちゃえープライド叩き割るつもりもないからさ。ほとぼりが覚めたらまた訊こうかな。

そういえば皆やたらと気を遣ってくれたけど、別に便利な隣人兼幼なじみが不在だからって早々困ることもないわよね。

ロゲールってば「俺がいるからいつでも頼りにしていいぜ」なんてカッコつけてたけど、黒油虫に悲鳴上げて震え上がる男が何の頼りになるんだって生暖かい気持ちになったわー。あえて言わなかったけどさ。

そんな感じでこちらはいつも通りです。

野菜シチューはさすがに送れないけど、ちょこつと差し入れを同送しておくわ。アンタが勝手に拝借しやがって減った梅酒と、薬のセット。二日酔いの薬、胃薬と、追加の腹痛薬。また他に欲しかった。

たら言つて。

美男美女揃いのお仲間さんの話もまた聞かせて頂戴ね。他人からは泰然と見えるらしい内情は人見知りのアンタが心配だわ。

女性もいるんだから、村にいるときみたいに半裸でフラフラしないこと。寝癖もきちんと直すのよ。黙つてキリツとしておけばそれなりに見られるんだから、初対面の人は騙されてくれるわ。

よろしくお伝えください。

（つて書いて、私のこと知らないんだからよろしくされても困るわよね、と気づいた。まあ、面倒な幼なじみが世話になるんだからということで。）

水の月二十三日 まだ出発しないのかよ！ と王国通信に突っ込んだのは内緒、エーファより

04 勇者の手紙(二)

《勇者の従者》

魔王討伐に付き従う、勇者の補助役。大抵、法術士である神官、攻も守もこなせる武官、治癒術の使える白魔術士、精霊と通づる精霊術士が選ばれる。

魔王に對することができるのは勇者のみなので、その他の折衝、交渉、露払いをこなすことが役目。

[illegible]

親愛なるエーファへ

現在、ルッキスの宿でこれを書いています。そういえば、無理矢理拉致されて魔獣の山の中に放置された修行から十年立つんですね。人生であの三ヶ月ほど死んだ日々はないので、魔王討伐など昼飯前です。いえ、油断はしません。気を抜いた瞬間どこからか師匠が岩を投げてきそう、常に臨戦態勢を保っています。あのジジイこそ真の魔王だと思います。

エーファが手紙を書いてくれるお陰で、遠く離れた地でもあまり寂しさは感じません。目覚めのボディプレスがないのは物足りないけれど、なんとか起きています。それから、忙しい君の手を煩わせるのも悪いので、魔窟を片付けていただくのは謹んで辞退します、と言つておきます。エロ本なんて隠していません。屋根裏にも壁の中にもベッドの下にも隠してないので破壊するまで家捜しするのはやめてくださいお願いします泣くぞ。

届けてくれた酒も、ありがとう。大事に飲む。薬のことだけれど、予備があれば二日酔いの薬をまた送ってください。町や村へ寄るたびに、その有力者から酒宴に招かれて少し辟易きみなんだ。……

だから俺は一人で旅に出たかったつつうのにクソ。

エーファがお訊ねの王国通信の写真についてですが、お察しの通り、あれは俺ではありません。写真が撮られたとき、俺はすでに王都から南の街に到着していたから。多分、対外的に格好をつけるために似たような人物を身代わりにしたんじゃないかな？ ご苦労様だね。華々しく出発して欲しかったんだろうが、いい加減面倒なのでとっとと城抜け出したあとでした。

ついでだからギルドで二、三簡単な依頼をこなしながら進んでいたんだが、二つ目の街を通過したときにお仲間さんに追いつかれた。現在一緒に移動中。ウゼエ。マジウゼエ。あいつらいるだけで目立つのなんの。こっそり魔王んとこまで行ってさっくり殺ってトンズラするつもりが、あいつらのせいでいちいち足止め食らってスピードが落ちたわ。マジウゼエ。無駄に美男美女、ぜってえ職業間違ってるし。

面倒なので一言で紹介してやる。神官は鬼畜眼鏡のストーカー。武官は硬派なロリコン。巫女は僕っ子で不思議っ子の二重苦。魔女はクールな天然ボケ。

…………… エーファが激励するまでもなくすでに死亡フラグが立っているような気がするのは俺だけか。

一人で旅したい……………。

村に帰れた野郎共がうらやましい、が、ここでもう一度言っておく。戸締まりはきちんとしろ。前言を撤回するが、手加減しなくいい。人がいない間に怪しい行動をするやつらは剪定鋏でちょん切っていい。俺が許可する。特にロゲールは帰ったら風車小屋の裏に呼び出してやるから覚悟しておけと伝えてくれ。

王都でのことは、俺が色々話してやるよ。

あといちいち勇者に（笑）^{カッコワライ}つけてんじゃねえ。

風の月一日（あいつら絶対撒いてやる…………）クロードより

05 彼女の手紙(三)

王国通信一《号外》——勇者特集号——

当代一。八八代勇者となつたクロード卿は、炎のような赤髪に夜色の瞳を持つ精悍な雰囲気の青年だ。王城に滞在中、鍛練をとものにこなした王国騎士は、底知れない力を感じると評した。それもそのはず、勇者は剣聖ギーツェンの愛弟子で、彼の流派で唯一の免許皆伝者。勇者となるのも当然の技量を持っていたのだ。

記者はさらに詳しい情報を得るため、彼を育んだ地へ向かった。

友人Aさん「彼は昔から勇敢な人で、魔物が近隣の村を襲った時など真っ先に駆けつけ多くの人々を救っていました」

友人Bさん「ギーツェン氏はたまたま幼い彼が鍛練しているところを見て、その素質を見抜き、自らの後を託すのは彼しかない」と弟子にとつたんですよ」

友人Cさん「彼、村にいるときから言っていました。何かに呼ばれている気がするって。今思えば、それはきつと……」

勇者クロードの話を聞かせてほしいと申し出ると、皆快く逸話を語ってくれた。勇者となる前より敬慕を集め、信賴に足る人物だと慕われていた様子がうかがえる。紙面の都合で全てを記することはできないが、きっと彼の人是我々の期待に応え得るだろうと確信できた取材となった。

[illegible]

クロードへ

王国通信 噴いたわ（笑）！！

友人ABC誰よ！ 精悍（↑ぷっ）、底知れないって得体が知れないじゃないの、師匠のことまで捏造されてるし！

師匠つてば酔っ払って畑を耕してたアンタに「鍬の使い方なつとらーん！」って絡んで肥溜めに突っ込んだこと口止めする代わりに剣を教えるって押し掛け師匠になつたんじゃないかな？

記者フィルター怖い！ これから私、王国通信の記事は半分眉唾だと思つて見そう。よくああ見てきたような嘘っぽい嘘書けるよね！

確かにね、記者っぽい人は来たのよ。ていうかアンタが選ばれてこっち、物見高い暇な人たちが村に押し寄せちゃって大変よー。だから魔窟を片付けたんだけど。

あ、安心して、『これが勇者の生家です！』って見せたのは外観だけだから。エロ本は隠し直してあげたわ、せいぜい探すのねフフ。ついでにお隣の薬師さんは「勇者さまが幼い頃から愛用していたお薬です」っていろいろ稼がせてもらったわウフフフ。

村おこしで勇者グッズ作ってるけど、ちゃんと使用料取ってるから。安心して名を上げていいわよ。

ギルド長から聞いたけど、今はメインの森を過ぎた辺りかしら。うっかりな勇者さまに傷薬の差し入れもしておくわね。あと、香草茶と。赤い花びらが入っているのが増血と消炎効果、青いのは精神安定よ。スツ転んだときとか、イラつときにも飲みなさい。何しろイロモノ勇者さま御一行ですものね、小心者のクロードが胃をキリキリさせている様子が目に見えるようだわ。止める私はいないんだから、キレないようにね。

風の月十一日 エーファ

追伸。長が何人が治安のために人を置いていつてくれているのでご心配なさらず。

が、ヤケクソみたいな量の薬を届けてくれたということは、やつぱり聞いたんだな。大丈夫、大したことはない。ちょこつと頭をザツクリ、いや、実は結構酷かったのは否定しない。でも巫女の治癒術があるから、あるんだけど、あるはずなんだが、（成功が稀ってどういうこと？）……ありがたくエーファの薬を使わせてもらってる。魔女が調査を知りたがっているので、良かったら教えてやってくれ。魔女といえば四人の中で彼女が一番アクが少ないため、気づけば会話することが多いんだが、鬼畜眼鏡が嫉妬してウゼエ。奴、幼児の頃から魔女に惚れているらしい。暇ありやネチネチ嫌味攻撃だよ。野郎、魔女の前では好青年気取りやがっていつか化けの皮を剥がしてやる。

武官は武官で巫女にデロデロだし、優しくするのと甘やかすのは違うのだと一度注意したい。不思議巫女は電波を受信するたびに頓狂な行動をするので、軌道修正が大変なんだ。

青い茶の消費量が半端ない……。マイペースが四人揃ったら混沌だということをこの旅で知りました。俺、魔王と戦う前にこいつらと戦わなければならないんじゃないだろうか。

オッサンに頼んだ治安維持は、うん、勇者騒ぎで余所者が流れてきているようだから、念のため。俺がいない間、周辺の魔獣狩りも依頼済みなので安心してろ。間違っても青年団の仕事に混じろうとしないように。ジジイがお前に教えたのはあくまでも護身術なので、自重してください。

風の月十五日 クロード

追伸。別に俺はささやかな膨らみでも満足できる男なので、お前が豊胸体操をする必要はない。

[illegible]

変態（冷たい目）

変な女に好かれる体質は変わらないので、一抹の不安を抱くわ旅先で花街に行くのはいいけれど、お姐さんはちゃんと選んで遊ぶこと。フラグ立てない。

ていうか私の胸が小さくてアンタに迷惑かけたか（怒）

[illegible]

花街は利用していません故にその手の薬も不要でございます、俺をどんな男だと思っているんだ。

お嬢さんが目に余るようなら、何らかの手を打つので、遠慮なく申し出てください。

というかホント王国通信取るのやめろ……

こしいことにする色ボケ戦隊よりよっぽど頼りになってる。（もちろんエーファの手紙や差し入れも俺の支えになってるぞ！　いろいろとつっこみたいこともあるが。巫女の治癒術がアレなので、お前の薬が俺の命綱です。追加ください。）

神官が派手派手しい美で衆目を集めるなら、奴は静かな美貌でひっそり心に忍び寄る感じ？　この評は巫女と魔女の受け売りです。サカリアスが仲間になったのはデイルツ領で誘拐事件を手掛けていたとき。なんでも彼の恋人が行方不明らしくて、誘拐被害者の中に彼女が居ないか探している途中、俺たちと行き合い協力しあうことになったんだ。

最初魔族の仕業だと言われていた事件は、大方の予想通り魔の活動が活発になってきていることを利用した便乗犯の仕業で、これぞお約束つてな展開で黒幕の領主が出てきた。館の地下に一代ハーレムって馬鹿じゃね？　とりあえず領主の始末は我慢の限界に達した女性たちにお任せして、神官のツテで領主代行を寄越してもらえように頼んでみた。お貴族様出身はこういうとき話の通りが早いな。魔王領域が近いから、来てがなかなか見つからなくてまた足止めされたけど。

肝心のサカリアスの彼女だが、いなかったんだ。これだけ探して見つからないということはあとは魔王領しか思い当たらないということだ。いい奴だから、悲しい思いはさせたくない。無事だといいな。

東マレール郷は魔王領域からは遠いので、あまり心配していないが、アホはどこにでもいるのでエーファも気をつけて。

早く村に帰ってエーファの飯が食いたい。

陸の月二十日　クロード

09 送られなかった彼女の手紙

××××××××××××××××××××××××
' 秘される記録

水ノ十八 都から南下。追跡。

クイゼにて小鬼討伐

コルソにて水妖駆除

ツアイト市まで商隊護衛

トドムにて一角鬼討伐に参加

アーレにて地下道探索

負傷なし。剣不使用。

水ノ二十五 ベルツ市にて従者合流。

カルマンにて小鬼駆除

風ノ一 ルツキス着

メイニングにて斥候の魔族と接触

剣を抜く。負傷。数日療養。

ギルド長の訪問

従者を撤く。

ニイイにて魔獣討伐

ハニガの古代遺跡探索中、従者に発見される。

防衛装置と戦闘ノ負傷

風ノ二十 リッツアにて公爵令嬢と面会。

ム力つく。連絡寄越しなさいよ。薬は届いてるの。転移門を開ける力があつたら、どつきに行つてやるのに。

そもそもどうして勇者は徒歩で魔王討伐に向かわなきゃいけないのよ、誰が決めたのよ。

滅ぼすことのできない魔王に捧げられる勇者という贄、このシステムを誰が作ったの。

誰がアンタを私から奪おうとしているの

10 彼女の手紙(四)

××××××××××××××××××××××××××××××××××
王国通信 《号外》

前年、大陸に渡った第三次友好使節団が帰国した。他大陸に渡る海域は海の魔物が巢食うため、使節団にとっては命がけの責務となる。幸いにも今回、使節に被害はなく、危険海域を渡る折も魔物の姿は遠目に見えるのみで、比較的穏やかな旅だったそうだ。

使節団は港街グステイにて一泊したあと、王都へ任務達成報告に向かう。

今回の使節が果たした役割の詳細は、後日行われる独占インタビューにて掲載予定。

××××××××××××××××××××××××××××××××××

親愛なる友クロードへ

つくづく思うんだけどギルド便すごい。王都からも辺境からも手紙が届く日数そんなに変わらないってどんな仕事してるの。

少し間が開いたから、郵便事故でもあったのかしらって、ちょっと心配してたのよ。無事に届いています。

アホ領主成敗ご苦労様でした。新しい友人が出来たそうで、しかも同性って快拳ね！ アンタ地味に友だちいなかったから（村の野郎共とは何故かいがみあってばかりだし）、楽しそうでよかったです。そのお友だちの恋人さんの搜索について、ギルドには相談してみた？ あの得体の知れない情報網で、噂の欠片くらいは見つからないかしら。

そういえば師匠が帰ってきたのよ。北央大陸に行っていたなんて言って、あまり見ない織りの布だとか薬草だとか薬学の本をお土産

にくれたんだけど、ホントに行つてたと思う？ 他大陸に渡る船だなんて、商船だつて一年に一隻あるかどうかで、しかも渡航の許可が下りたとも思えないのに。……密航……？ いや！ 私は知らない何も聞かなかった気づかなかった！

しばらくのんびりするらしく、アンタが留守でちょうどいいし隣家に滞在するだつて。せつかく魔窟を片付けたのに。せめて家が壊れないように見張っておくわ。

進行速度を考えたら、そろそろ魔王領域に入る頃かしら。ギルド便もさすがにそこまでは手紙届けられないわよね。念のため、薬を多めに渡しておきます。持ちきれない分は、役に立たない従者どもに持たせなさい。梅酒はなくなっちゃったけどルーリーの果実酒がいい感じに出来たので、オマケで送っておきます。サカリアスさんとやらとお飲みくださいませ。それから、魔王領は宿なんてないだろうし、各種スパイス類ね。採取できそうな薬草のメモを入れておくので、役立てて。

……師匠にお前はオカンかつて言われた……。失礼な！ ちよつと自分でも思つてたよ！

あと、これは独り言です。

逃げちゃってもいいよ。

どうせまた四年したら新しい勇者を選ばなくちゃならないんだから、クロードがもうヤバイなつて思つたら、逃げちゃえ。私が許すつて言つても、アンタはギリギリの無理を重ねて何とかしようとするんだらうけど。馬鹿だし。待ってる。

陸の月二十五日 エーファ

11 勇者の手紙（五）

《王国》西に位置する四方を海に囲まれた陸地にあるアトス王国の通称。北を険しい山脈、東を深い森、西は荒海、南に魔王を配する。広大な土地があるにもかかわらず、人里を一步出ると魔獣や魔物が闊歩しているため、他国との交流がままならず独特の文化を發展させることになった。

国を治めるのはアーベントロート国王家。

[illegible]

親愛なるエーファへ

ギルド便恐い。現在魔王領域進行中。この辺りは遺棄された村のあとが残るだけの荒野で、辛うじて屋根が残っている建物で野営してる。色ボケ戦隊はこの度それぞれめでたくまとまって、手紙を書いてる俺の背後でイチヤイチヤしてます。ム力つく滅びろ。俺がエーファと離れて一人ぼっちで苦労してるつつうのにこいつらム力つくサカリアスと示し合わせて置き去りにしてやるうかな！　ここまで来ると隠密でとっとと魔王城まで単独制覇した方が早い気がする。

ていうかギルド便恐い。俺らがえっちらおっちら進んでる道のりを、シュパ！（現れた音）スチャ！（荷物を差し出した音）「受け取りのサイン下さい」にこり！（営業スマイル）、ご利用ありがとうございますでした〜って通常業務通りに去っていくの恐い。ここ、魔王領域ですよ……？（でもってこの手紙を書き終わったら、「ご利用はございますか」にこり！とどこからともなく現れるんだ……。

ギルドで討伐隊作ったら聖剣なくてもサクッと魔王倒せるんじゃない

ないでしょうか。そんな気がするギルド怖い。

その恐いギルドには、お前の提案通りサカリアスの恋人の情報は伝えてある。だけど、行方不明者の情報が多すぎて逆に解りづらいことになっているらしい。奴が諦めない限り、俺も協力しようと思う。

果実酒うまかった！ ちよつといつもより甘めかな、と思ったけど、疲れてたからちよつと良かったよ。サカリアスには一口だけやってあとは独り占めしてやった！ ケチと言われようが俺のだもんね。色ボケ戦隊になんかやるもんか。魔女が作り方教えて欲しそうにしてたので、神官が飲むと思ったら腹立たしいが、あとでこっそり教えてあげてもいいか。お前が書いてくれた薬草料理レシピも凄く喜んでたし。

うん、無表情に喜んでた。神官に睨まれた。魔女が嬉しそうなのは良いがそれが他人（俺のことね）から与えられたものだということが気に入らないらしい。あの男ウゼエ。

ウゼエといえば、自分の髪を踏んでよく転んでいる巫女にエーファに以前叩き込まれたりボンを使う髪結いをしてやったら、ものすつごくキラキラした尊敬の眼差しで見つめられて、武官にうっかり殺されかけた。手が滑りましたって普通岩は飛んでこねえ。自分が出来ないからって八つ当たりはヤメロ。

従者の女性たちはある意味小動物みたいでまだ可愛気があるだけ我慢できるが、野郎共はウゼエ、その一言に尽きる。早くおさらばしたい、というわけで魔王領域サクサク攻略したいと思う。

無理しない程度に頑張るから、心配しなくても大丈夫。いや、心配してくれるのは嬉しいけどな？

そうだ、エーファがあのだジジイの面倒なんか見なくていいからな俺んちから叩き出しといてください。ヨキア家のベルタさんに押し付けるとよいと思います。アンナさんでもいい。姉妹両方とか死ぬジジイ。

オカンなんて思っていないよ。ちゃんとエーファのところに帰るから、余裕で待ってる。

流月十日 クロード

12 彼女の手紙（五）

王国通信 《增刊号》 秘湯 探訪

それは、知る人ぞ知る。同好の士の間だけで囁かれる秘密の場所。どんな険しい山道だろうと、どんな危険な魔獣出没地帯だろうと、それを求めてどこまでも！片手に桶を携えて、使用するのはもちろん環境に優しい自然派石鹸、タオル巻きなんて邪道だぜ！この道四十七年、秘湯狩人 モーリッツが今回皆様にこっそりと、癒しの湯・活力の湯・美肌の湯・痺れるほど刺激的な湯・魔獣が混浴をねだるスリリングな湯等々、様々な効能を持つ温泉をご紹介します！

「……秘湯へ向かわれるときは、充分周りに注意を払い、場合によっては何が起こっても後悔しないように一筆残しておくか、冒険者ギルド員に同行をお願いすることをオススメ致します……」

特別付録

- ・ 紹介秘湯効能一覽表

- ・危険察知に便利な魔獣分布図

- ・心残りチエツク表

[illegible]

親愛なるクロード様

本日もおつとめご苦労様です。魔王領域から離れた田舎にいと、魔物の被害や魔族の侵攻のことは遠い世界の話のような気がして、いだけれど、現実には幼馴染みの貴方がそこにいると思えば、他人事ではないのだと身につまされます。

クロードにお願いされたので、王国通信号外見るのはやめて、今はギルドの情報誌を取ってるわ。ちよつと値は張るけれど、いろいろと勉強になります。

そう、もうお気づきのこととは思われますが、私、この度薬師階級を上げました！ 情報誌を購読できるギルド位ランクが必要だったのと、改めて師匠や長に勧められたのよね。階級を上げるとクエストの義務が生じるし面倒だから、登録時のままにしていたけれど、このご時世だもん、贅沢は言えないわ。

いいこともあったのよ。ギルドを通しての薬や薬草の買取額が二割増しになったの。巷の流行りは治癒術だけど、実のところ術力切れになったらそこで終わりだから、ギルドでは重篤な怪我でもない限りは薬や薬草を使うことをオススメされているんだって。

それに何といっても、私の薬は勇者さま御用達ですから。稼がせていただいてますわ。

と、いうわけで売れっ子薬師になってしまった私は、少なくなっただ在庫補充のためにただいま採集の旅に出ています。いつもはアントラについてきてもらって、村周辺の森を回るくらいだったし、こんなに遠出するのも初めてだから、ちよつとビクビクしてる。王都行ったときのアントラを笑えないわ。

ホントのところ、師匠が「村ひま、温泉行きてえ癒されてえー！」って駄々こねたのが発端。そしたらギルド長が「いいところ知っていますよ」って、師匠を唆してさ（ちなみにアントン家で飲み会やつてる最中。ツマミ作製要員が私）。なだめるのも邪魔くさかったから、「ハイハイ行つてらっしゃいお土産よろしく」、なんて見送る気満々だったのに、温泉地で特別に取れる薬草の話なんて持ち出されたら行くしかないでしょう。「温泉なら私たちも行きたいわ」ってヨキアさん家のお姉さんたちも言い出して、めでたく出発と相成ったわけです。ギルド長つてば師匠に体よく魔獣討伐押し付けて私を薬草採取に誘導して一挙兩得を狙ったんじゃないの……？

なんだか釈然としないながらも、温泉堪能しつつの魔獣退治は師匠とお姉さんたちに任せて、私は隅っこでちまちま採取を頑張つてます。美人姉妹を両手にウハウハしている師匠がウザイので、調査中偶然できたつばい『ちよつと男性が大人しくなるお薬』を、実験

がてら今夜飲ませてみようかと思ってる。

採取している以外はなにもすることがなくて、毎日上げ膳据え膳、温泉にまったりつかって、怠けた身体がもちもちしてきたような気がします。ヤバイ。肌がもちもちはいいけど身体がもちもちはヤバイ。明日から走る。

この辺りで採れる野草を使ったお料理、宿の人に教えてもらったので、クロードが帰ってきたら作ってあげるわね。腹痛や胃痛に気をつけて、無理せず頑張ってください。

流月十四日 エーファ

（ところでギルド便、ここにまでやって来ました……。いや、長から私の居場所は聞いていたのかもしれないけど、けど……。！ギルド便怖い。）

こっそりとかひっそりって言葉知ってるかー（怒）！ と俺がキレて二人に当て身をくらわすくらい、仕方ないと思わね？ あとで魔女には謝つといたけど。逆にめちゃくちゃ謝り返されたけど。女の子、手加減したとはいえ殴っちゃいけないですよ、反省。神官は放置。

それ以来魔女は神官を丸無視です。そうすると必然的に俺たちとばかり会話することになるわけで。……神官の視線で呪われそう。サカリアスも同じ立場だというのに、なんで俺だけ。ムカつくから魔女にことさらにこやかに接してやった。いや、妹を可愛がるようにだからな、誤解すんなよ？

昇格おめでとう……と言っているのか？ いいのか。とりあえずおめでとう。俺がいない間にジジイも長も好き勝手してやがるな。特に長、本部にいるよ、フットワーク軽すぎる。ジジイにはぎっくり腰になれの念を送っておく。温泉いいな温泉。俺もまつたりしたい。帰ったら俺も一回行きたい。もちもちはエーファさんが気になってる部位に集めてみたらどうですかと一応提案してみる。

旅もそろそろ終盤です。魔王領域も半ばを過ぎると、魔獣は減り魔族さんの姿が周囲にチラホラし始めています。ストーカーか。たまにちよっかいかけてきて、嫌がらせのように中途半端な攻撃をしてくださるのですが、イライラする！ イライラするぞ！ もう魔王もまとめて来てくんないかな！

だめか。勇者が行くのが決まりごとですかそうですか誰が決めた。まあね、だって魔王は別にこっちに攻めてきているわけじゃないもんねー、こっちが攻めてる立場ですもんねー、とか言ったら何罪で捕まるのか興味あるー。ここまで来たら関係ないけどな。

死亡フラグ立てるついでに言つとこう、俺、帰ったらエーファに聞いてほしいことがあるんだ。

逃げんなよ、地の果て……は俺が今いるとこだから、世界の果てまで追っかけるぞ、覚悟しとけ。

よし。いろいろ楽しみも出来たことだし、サクッと行ってくる。
そろそろギルド便、厳しそうだなあ。

流月二十一日 クロード

14 彼女の手紙(六)

××××××××××××××××××××××××××××××××××
とあるメモ

《魔獣》と《魔物》と《魔族》

《魔王》の力が強くなり《魔王領域》が範囲を広げると、まず周辺の獣が《魔化》し、《魔獣》となる。魔獣の分布が広がると普段は眠っている《魔物》が身を起こし、手当たり次第に害をなす。魔物が魔王領域外にも頻繁に出るようになれば、《魔族》が現れ、魔王の侵攻が始まる——と言われている。だが、王国の歴史で魔王が王国への侵攻を行なったことは一度もないという事実は、意外と知られていない。

××××××××××××××××××××××××××××××××××

親愛なるクロードへ

ご機嫌いかが。うつすら疲労の様子が見えるギルド便のおにいさんから今回も無事手紙を受け取りました。毎度すみません、つて言ったら、「いえ！ いい修行になってます！」って一分の隙もない笑顔で答えられたわ。プロ根性つてやつかしら。……何の修行？ ギルド長、何を目指しているの。

あいかわらず従者さんたち痛いわね。他人の痴話喧嘩に巻き込まれることほど腹立たしいことはないって、やっとクロードにもわかった？ 今までさんざん巻き込まれてきた私が言う、ザマア！ といえ誰とは言わないけれど、どこかの幼なじみ様が、やたら無意識に村の女の子たちや一人旅のお姉さんや冒険者ギルドのお姐さまたちにフラグを立てまくったあげく苦し紛れの逃げ口上でこちらを巻き込んで下さったことなど根に持ってないわよ。持ってないってば、根には。

ある意味、従者のお嬢さん二人にそれぞれお相手がいて良かったわ。ここからじゃアンタの女難を解決してあげることも出来ないし、でも彼女の周りにいる男が全て敵に見える彼氏がついてるならあまり状況は変わらないのか……。

最近思っただけど、クロードってば師匠に剣術習うついでに、変なことも教えられたんじゃない？ フェロモン垂れ流し発動術とか、温泉宿で女性を侍らしている師匠を見るにつけ、そんなことを考えてしまいます。

ところで話は変わるようでいて変わらないのですが、先日、例のお姫様から王都へのお招きを受けてしまいました。私が。

何考えてるのかしらね、田舎娘をわざわざ都会へ呼び寄せてそんなに恥かかせたいのかしら。「薬学の知識を是非みなさまにご教授いただきたいの！」って、民間療法なんてお貴族様には体質的に合わないと思うんだけどなあ。胡散臭いことこの上ないので、もちろん丁重にお断り申し上げました。

わかってるのよ私だって。目的がアンタだってことは。身内のないアンタの近しい相手って、私か師匠くらいなもの。引き入れておきたいと思われるやんごとなき方々がいらっしやるんでしょう。こんな山奥まで使いの方が訪れる様子があるので、面倒がった師匠としばらく雲隠れの予定です。とりあえずギルドには値が張るけれど情報封鎖を依頼して（長のボツタクリ！でもギルド便にかなり無理をきいて貰ってるので負けてとか言えない……）、どこへ姿を隠すかは今相談中。アンタの手紙は届くようにするから、安心して。温泉はほとぼりが覚めたら、またね。それよりも海がいいな、海。遊ぶのは危険だから無理だけど、浅瀬で遊ぶのは大丈夫よね。山の幸は充分堪能したから、次は海の幸！採れ立てを焼くだけでも美味いんだって、師匠が横で言ってます。楽しみー。

っていうか何、その死亡フラグ。アンタ馬鹿？それともヤケ？ヤケっぱちなのか？別にそんな予防線張らなくったって、頑張っ

てるんだもの、何でも聞くわ。

一週間はクロードの好物で食卓埋めてあげる。楽しみにしてて。

ねえ、だから、

どっにいろ。

15 届けられなかった手紙

×××××××××××××××××××××××××××××××××××

星月 魔王城目前にて対象ロスト

×××××××××××××××××××××××××××××××××××

親愛なるエーファへ

ええと、いろいろと話すことがあるんだけど、まず、現在、単独にて魔王領域進行中。たぶん、もう城まで来てる。

もうひとつ、従者たちを完全に置き去りにしてきました！

前回の手紙で（届いているよな？）、魔女と神官が喧嘩した話にしたと思う。そのとばっちりが何だか知らんが、神官に殺されかけたんで返り討ちにして行動不能にしてやりました。

「どうせ魔王に捧げる贄なのです今殺しても変わりません」って、いや変わるだろ、とりあえず俺が魔王に直接対峙しなきゃなんないんだっつーの。あと勝手に捧げんな。王都のお偉いさんの意図は薄々わかってたから、シヨックでも何でもないけど、ダメだろ神官、監視の役目果たしてねえぞ。恋に狂ったオトコ怖い。

驚くのは魔女だ。神官が俺を騙して殺そうとしたことに心底怒っているのに、それでも好きなんだと。うん、まあ……そういうのは理屈じゃないから仕方ない。でも野郎に魔女は勿体ないと思うのですよ、精神的お兄ちゃんとしては。

しばらくは動けないくらいに痛めつけたんで、神官脱落。魔女も看病のため居残り。《勇者》がいないから、魔族は襲ってこないだろうし、魔物なら魔女が対抗できるから大丈夫だろ。

さて、従者たちが俺にとって全く益にはならないとわかったので、

問題はもう一組のバカップルさんたち。武官は、俺が死んだときに剣を回収する命を受けていたものの、積極的にどうこうとは考えていなかったよう。きつと面倒臭いからだな。

じゃあ、とにかく終わったらすぐに剣やるから俺の邪魔はすんなと言いついて、ついてくることを許した。魔王城、もうそこに見えてたし。

——が、だ。もと役場っぽい建物で休息中、巫女が妙な電波を拾って素っ裸で襲ってきた。事件が起きました。エーファ以外のつるぺたに興味はないので速攻シバいて武官の寢床に放り込んでやりましたが。「ボクには強い者の血が必要なんだ！」ってことらしいから武官で問題なし。喜んで襲われてくれたと思う。来年にはどっちに似ても将来が心配なベビーが生まれるでしょう。もう知らね。そんな感じでこっちも置き去り決行。

解放感！！

ウゼエ奴らがいないだけで空気まで澄んで感じるな！ 魔王領だけど！ しかも今俺がいるの地下通路だけど！ ビミョーにカビ臭い！

……はい、城に近づいたところで、魔族のお兄さんと追いつき合ってしまった。……どのくらい落ちたかはわかんね。瓦礫避けながら落ちてもとの場所からは離れたかな。しかし、タンコブでただただ自分の悪運の強さにちょっと戦慄。

この地下道、蓄光石があちこちに埋められていて、ずいぶん埃が溜まっているものの進むのに支障はない。地上にいたところからの距離を考えると、魔王城の真下。神代の頃のものらしく、ツルツルした素材でできていてひんやりしている。魔王城直下のわりに魔物も魔族も居ないし、虫や鼠も見かけない。はつきり言ってなんの気配も感じられなくて怖いです！ ギルド配達員でもいいから現れて

！ もう怖いとか言わないから！ ここの方が怖い！ どうせ最終的には会うんだから、「また後でな（ニヤリ）」なんてカッコつけてサカリアスと別行動しなきゃよかった！

ああ、あいつとは従者たちを置いてくる前に別れてる。あいつはあいつでやることあるしさ。だいたい俺と魔王討伐の旅すること自体おかしいだろ……。恋人と再会させてやるために、頑張って目的地へ辿り着きたいと思います。

この手紙書き終わったら行ってくる。

現在、通路の端っこに縮こまって、出せるあてのない手紙をちまちま書いている勇者……。寒いな。自分のことだけ。

エーファに早いとこ会いたい。もう半年だよエーファ切れ起こしてるよ。もちもちになったエーファをもちもちしたい。こんなところに落っこちたから、手紙も受け取れないし、きつと心配してるよな。死亡フラグ（笑）とか遊ぶんじゃないかった。ごめんごめんごめん。

絶対帰るから、超絶土下座してあやまるから。迎えに行くから。

師匠がいるから大丈夫だとはおもっけど、お偉いさんの手がお前に伸びてないかだけが心配。

行ってくる。

星月7日 クロード

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9983w/>

彼女と勇者と往復書簡

2011年10月12日03時57分発行